

THE NEW FARMERS

ニューファーマーズ

No.257
JAEC会報誌

◆郷土を興す農業者 ◆日本を伸ばす農業者◆世界を拓く農業者

contents

常務理事挨拶	1
研修生からの便り	2・3
派遣事業 / 令和6年を振り返る	4
受入事業	5
にほんでまなんで	6
JAECの活動について	7
協会の動き	8



事前講習の芋掘り演習。9月でも30度を超える炎天下でした

ニューファーマーズ249号から、オンラインでもご覧いただけます。
本会ホームページに掲載するほか、Emailでも配信しています。

ニューファーマーズ No.257 |
2025年(令和7年)1月(年2回 1月、7月発行)
ホームページ: <https://www.jaec.org>
フェイスブック: <https://www.facebook.com/jaec.trainee>



編集・発行 / 公益社団法人国際農業者交流協会
〒144-0051 東京都大田区西蒲田5-27-14 日研アラインビル8階
TEL: 03-5703-0251 (総務部) 03-5703-0252 (派遣業務課)
03-5703-0253 (活動支援課) 03-5703-0254 (受入業務課)
FAX: 03-5703-0255

新年のご挨拶



公益社団法人国際農業者交流協会
常務理事 吉川 隆志
(東京都/S54/米2)

明けましておめでとうございます。
皆さまにはお健やかに新しい年を
迎えられたこととお慶び申し上げます。

今月20日、アメリカ合衆国の第47
代大統領としてDonald Trump氏が就

任し、アメリカが、そして、世界が大きく変わる可能性がある年となります。一方、国によっては、社会的不安を背景に保護主義や排他主義の考え方に徐々にシフトしているような雰囲気を感じられ、それは協会の屋台骨とも言える農業研修生海外派遣事業にも影響を与えつつあります。昨年、オランダの受入機関から残念な連絡が届きました。オランダ政府当局が外国からやってきた研修生が同国で研修を行うことについて、研修とは勉学の要素が多く取り入れられるべきであり、作業をさせることは研修ではなく労働であるとの解釈の下、研修生の受入農家とそれを手配した受入機関に対して重い罰則と罰金を科しました。これにより、世界に通用する将来の

農業者を育成することに良心的に、また積極的に受け入れをしていただいていた農家が研修生を受け入れることができなくなり、また、受入機関も当局の極端な判断に大きなショックを受けて団体を解散せざるを得なくなりました。1963年から行われてきた長い歴史を持つオランダ農業研修がここで中断せざるを得ない事態となりました。さらに、ドイツにおいても1956年から日本人農業研修生の研修プログラムを行ってきたものの(ドイツ人農業研修生の受け入れは1978年から)、同国政府の予算上の問題で日独間での研修生の送出・受入とも継続実施ができなくなりました。オランダもドイツも農業を学ぶ上で大変重要な国であり、これらの研修事業を中断せざるを得ない状況となったことは誠に残念です。各国の政策によるものとなると解決はなかなか難しいですが、協会は今後もこれらの国々の農業省や在京各国大使館等を通じて農業研修再開の可能性を追求することにしています。農業者の高齢化、農業従事者の減少、気候変動による不測事態の多発、そして、国策として求められる食料自給率の向上など、農業をとりまく状況は厳しさを増していますが、そこに携わる人を発掘し農業者として育成することこそ解決の一步であると信じています。新年におきましても、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

研修生からの便り

カメラ目線を
頂きました

今しか経験できないこと

千賀 ちひろ（島根県/R4/アメリカ）

研修農場：Harlan mountain farm, Sky valley family farm



鶏農家のボスの子どもたちにはたくさん遊んでもらいました。

私はアイダホ州の山羊酪農家で9ヶ月、ワシントン州の鶏卵農家で4ヶ月の農場実習を終え、現在、カリフォルニア大学デビス校で専門学習を受けています。

山羊酪農家は副業的に趣味の延長で始まった牧場で、鶏卵農家は3世代以上続く家族経営、鶏卵だけでなく肉用鶏、牛、豚も飼育しているという全く違う背景、分野の農場で研修させていただきました。日本でマ

イナーな家畜の山羊の魅力を知れたこと、広々とした放牧地でのびのび生きている動物たちを見たことなど、農業経験がほぼなかった私にとってはどちらの農場も刺激のある毎日でした。

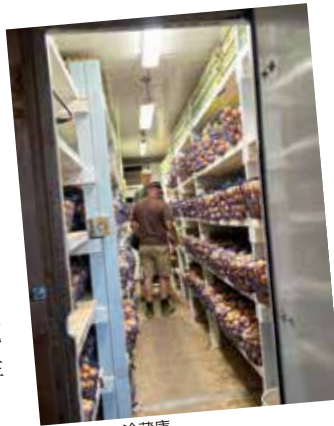
また、どちらの農場もホームステイで、専門学習中の現在もホームステイなので、3つの家庭それぞれのアメリカ生活を味わっています。どの家庭にも共通して感じることは、

家族仲の良さです。私は10年以上一人暮らしをしていたので、帰国後の生活を考えるいい機会になりました。

専門学習（2か月間のカリフォルニア大学デビスキャンパスでの学科研修）が始まってからは運動不足を感じながらも、新しい知識を得られる楽しさ、日本語で冗談を言い合える気楽さで充実した日々を送っています。

専門学習の授業は、アグリビジネス、スペシャリティ、SDGs（週1）、フィールドトリップ（週1）があります。アグリビジネスでは、自分のビジネスプランを考えて最終授業で発表するために経営やマーケティングについて学んでいます。スペシャリティクラスはアメリカ、特にカリフォルニアの農業について学び、大学の施設見学もします。今までの農業研修の経験を振り返ったり共有しながら考える授業は、このプログラムでしかできないことだなと感じます。

この研修も残り約1ヶ月となりましたが、大学でしかできないこと、今しかできないことをたくさんして胸を張って帰国したいと思います。



卵保管用の冷蔵庫。
毎日4,000個以上集めます。

一日一生。はみ出して馴染む

山家 天文（新潟県/R5/アメリカ）

研修農場：UCC Hawaii

みなさんこんにちは。私は現在ハワイ島のコーヒー農園で農業研修を受けています。私は前職である教員を退職し1年間WWOOFerの活動を経てこの研修に参加しました。この研修に参加しようと思ったきっかけは、小さい頃から海外の農業に興味があり日本に輸入されてくる外国産の農作物はどのようにして栽培されているのか興味があったからです。

長期に渡って海外で農業をするのは今回が初めてですがとても毎日が新鮮で学ぶことの多い研修になっています。現在行っている作業はpicking（収穫）です。赤く熟したコーヒーチェリーを手でひたすら収穫していきます。この地区のコーヒーは「コナコーヒー」といい世界3大コーヒーの一つです。品質を下げないように青豆やドライ豆・虫食い



ただいま
収穫中！

豆などを混ぜないようによく確認しながら素早く収穫していくのがポイントです。

苦労していることはワーカーの主言語がス

ペイン語なため英語が話せる方が少なく言葉の壁に当たることです。ですがジェスチャーを含めるなどで乗り越えています。海外では日本の固定概念や常識は通じません。遠慮していたらどんどん埋もれてしまいます。なので、はみ出して馴染んでいく。積極的に行動し、コミュニケーションをとり、その中で自分らしさを出しているよう毎日奮闘しています。

2024年6月に渡米をしこの便りが発行される頃には半年が経過していると思います。ありがたいことに毎日学びのある日々を送らせていただいているのでタイトルにある通り一日一生。一日を無駄にせず今後も仕事も休日も全力で楽しんでいきます!!

またこの研修を通じてたくさんのOB、OGの皆さんをはじめ令和4年度研修生、同期の研修生、現地スタッフや農場見学をさせてくれた農場主の皆さんなどたくさんの出会いにも恵まれました。今研修を受けられている事に感謝をし、残りの研修を有意義に進めて参ります。



収穫したチェリー
(てぼしてしまいました)

研修生からの便り

自身の成長と変化の一年

竹内 舞唯（群馬県/R5/スイス）
研修農場：Familie Altwegg

私は今スイスのトゥールガウ州で酪農と畑作を行っている複合農園で研修をしています。私の研修農場では60頭前後の牛の搾乳をしてチーズやバター、ヨーグルトに加工しています。また畑作ではじゃがいもや玉葱、人参、セロリを栽培、管理しています。従業員はポルトガル人が一人と研修生の私だけであとは家族で回しているため少人数で広い面積を管理しています。また農業だけではなく家事手伝いも仕事としてあるためどちらも両立してこなすのが難しい農場だと思いました。毎朝の日課としてある4時半からの搾乳は朝があまり強くない私にとってはとても大変な仕事ですが毎日行うからこそミスをしないように気を引き締めて仕事をしています。4月から研修を始めて長い月日が経ってもわからないことや、上手いかわないことが沢山あります。それでも自分で乗り越えていくことが日本に帰った



牛舎

時の成長に繋がると思い、日々農業研修を頑張っています。研修先の家族は厳しくて農業でも家事でもミスをしたときは怒られてしまいそのたびに落ち込んでしまいましたが、努力をしてうまく仕事が出来た時は笑顔で褒めてくれるのでとてもメリハリのある研修を送ることができています。ドイツ語は未だに自身の語学力が低いせいで、伝えたいことを上手く伝えられなかったり、仕事でミスをしてしまったりしてしまうので悔いの残らない研修にするためにも少しでも語学力を上げて最後にはお世話になった研修農場の家族に感謝の気持ちをドイツ語でしっかり伝えられるように頑張りたいです。



じゃがいも収穫のメンバー



玉葱収穫

Nuffield Farming Program に参加して

吉川 京太（奈良県/H30/アメリカ）

私は現在Nuffield Farming Scholarshipプログラムという国際農業研修プログラムに参加しています。このプログラムは70年以上の歴史がある国際農業奨学金制度で、選出された農業者はスポンサー企業の奨学金をもらいながら2年間にわたり世界6大陸の農業生産現場などを訪問し先進的な農業技術や文化を学ぶものです。私は昨年幸いにも奨学生に選出されて、昨夏5週間10人の研修生（オーストラリア5人、チリ2人、アイルランド2人、日本1人）と共にニュージーランド、カナダ、アメリカ・ネブラスカ、ケニア、タスマニアの5カ国を訪れました。

ニュージーランドでは、キウイフルーツを世界に輸出するZespriの洗練されたモデルに感銘を受けました。品種改良とライセンス制による供給制限が、品質と価格を保護しています。

カナダでは、ノバスコシア州での地域フードシステムの強いコミュニティ連携と、気候変動による農業への影響を深く考えさせられました。

ネブラスカでは、35,000頭規模のフィードロットや900頭/時の搾乳を行う酪農場といった大規模農業に圧倒されました。フィードロットは効率的で温室効果ガス削減に役立つ一方で、理想との葛藤も感じました。

ケニアでは、植民地時代の土地所有の影響や、自動化と雇用のト

レードオフに直面する現状が印象的でした。

タスマニアでは、技術導



ケニアの花のハウス栽培



ケニアの家畜研究所の様子

入や持続可能性への取り組みが際立ちました。そして何よりも同じスカラーズとの絆が旅を特別なものにしました。

訪問先の農業や地域の課題から多くを学ぶと同時に、仲間との友情は忘れられない財産となりました。この素晴らしい機会を提供してくれたすべてのホストとコーディネーターに心から感謝します。

またJAECアメリカ研修を経験していたことで、海外農業の理解も抵抗なく進めることができ、19ヶ月の研修を終えてなお今の農業人生に活きている事に喜びを感じました。今後も国内、国外の農業事情をより深く勉強し日本農業発展に貢献できるよう精進します。

令和6年を振り返る

全国のOB・OGの皆さんにご協力いただきながら、令和6年度海外農業研修生を募集しました。右の表の通り、研修生の人数が大きく減っているように見えるかと思いますが、しかし、アメリカについてはここ数年の同人数程度、スイスについては、近年で一番人数が多くなっており、研修生数が大きく減少した要因としては、ドイツコースとオランダコースで事業が中止となったことにあります。

令和6年度 海外農業研修生 参加予定者

※2024年10月末現在
 ・アメリカコース 29名
 ・スイスコース 9名
 合計38名



事前講習より



炎天下の農作業実習



BBC担当者に英語でスピーチ



みんなでBQQ

令和6年度ドイツコースの中止

令和5年の冬、ドイツでは農業者が全国各地でデモを行ったというニュースを耳にしたかと思います。これは、ドイツ政府のコロナ対策予算の流用が違憲となり、その問題を解決するべく、EUの環境政策である「グリーンディール政策」に基づき、農業の環境負担規制を推し進めて穴埋めしようとした対応に農家の怒りが爆発したことによります。この時活動の中心的な役割を果たした農家利益団体のドイツ農民連盟(DBV)は本会研修受入機関ですが、農家の利益を守る活動の結果、農業予算上昇を招き、DBVのプロジェクト資金の予算成立が大幅に遅れました。この影響は今年度にも波及し、多くのプロジェクトを中止して予算確保を図る必要が生じたとのことです。残念ながら、本会との間で行われていた関連事業も中止となってしまいました。令和7年度以降については今後調整を進めて行きます。

オランダコースの中止

オランダ受入機関SUSPが、オランダ労働局より過去の事業実施状況に関する査察を受けた際、残念ながらEU外の国々から参加していた研修生に対するプログラム内容の水準が、本来計画されたレベルに達しておらず、受入をした農家とSUSPはペナルティーを受けることとなってしまいました。外国人研修生は言葉の壁があったり、いわゆるOJTでは単純な農作業や下働きの要素も含んでいるものですが、研修内容に学術的な視点があるかどうかや、農家の計画履行力(天候など関係なく)・研修生指導力など、研修事業実施団体にとっては根本的に改善の難しいポイントで改善命令がなされました。そのため、SUSPは最終的に4月をもって事業を中止することを決定し、それに伴い、本会の研修事業の受け皿となる団体が見つかるまでオランダコースを中止することとなりました。

令和7年の展望

新年度の農業研修生海外派遣事業の募集は1月よりスタートしています。欧州では、デンマークとスイス以外のコースの実施ができない状況です。アメリカコースについては、これまで同様に18か月のプログラムをご用意しています。

今後のために、新しい国での研修プログラムを検討しています。すぐにレギュラーのプログラムにすることはできないため、まずは、現地の求めるレベルに達している応募者について、ご希望頂いた方には新規国でのパイロット事業にご参加頂くことも考えています。

海外農業研修の参加経費の半額、最大60万円を助成する農業教育高度化事業については、引き続き窓口として役割を果たしていきたいと考えています。より多くの方にご利用いただけるよう、皆様からもご紹介いただきたくお願いいたします。

全国農業新聞

週刊 月4回 金曜日発行
 月額700円、年額8,400円

■お申し込みはお住まいの市町村農業委員会へご連絡ください

[発行所] 一般社団法人**全国農業会議所**
 〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8中労基協ビル
 電話：03-6910-1130(平日9:00~17:00、土・日・祝日は休み)
 ホームページ：<https://www.nca.or.jp/shinbun/>

パソコン・タブレット・スマホでいつでもどこでも新聞が読める

電子版を配信中!!

全国農業新聞

検索



クレジットカード払いのみでのお支払いとなります

月4回・毎週金曜日・午前0時配信 購読料 月額500円・年額6,000円



アジア地域の農業青年の未来作りのお手伝いをしませんか？

現在、アセアン農業研修生の新たな受入農家を募集しております！こちらは、農林水産省のODA（政府開発援助）事業による研修プログラムであり、タイ・フィリピン・インドネシアから農業青年を招へいしております。農作業と受入農家とのコミュニケーションから日本の農業技術や経営等を学び、農業リーダーとして自国の農業を牽引していく人材を育てるための研修プログラムです。

技能実習生や特定技能生とは大きく異なり、就労ではございません。

そのため、受入農家家族の一員として約10カ月受け入れていただきながら研修をするプログラムです。

文化・宗教など日本とは異なる点をご理解頂きながら、アジアの農業の未来を担う若者の育成にお力添え頂ける方を募集しています。

ご興味のある方はぜひ右のQRコード（本会HP）をご覧ください！

（アセアン農業研修生パンフレット掲載中！）

★アセアン農業研修生
（タイ、インドネシア、フィリピン）

研修期間

約10カ月（4月下旬～3月上旬）

研修生

概ね20代（渡航時30歳程度以下の男女）

農家負担額

令和7年度約104万円（予定）/研修生



アセアン農業研修生OB・OGを特定技能生として受け入れませんか？

皆さまのお力添えもあり、過去にアセアン農業研修生として日本の農業技術や経営スキルを身に着けたOB・OGたちは、現在3カ国合わせて1800名以上おります。

そんなOB・OGからこんな声が多く寄せられています。

「自国に戻ってから学んだことを実践しようと頑張ってみたが、どうしても資金が足りない…」

「いざ実践してみたけれど、まだまだ知らないことがたくさんで、技術が足りない…」

こうしたOB・OGたちをどうにかサポートできないか。そんな思いから、2024年よりアセアン農業研修生OBを特定技能外国人（特定技能1号）として受け入れる取り組みを試験的に実施しております。

なぜJAECが実施をするのか。そこには、農業を学ぶために再来日を願っている優秀な研修生OBたちを昨今の技能実習および特定技能外国人に関わる数多くの悪質なブローカーから守るため、地域の農業をけん引す

る農業者として、より成長してもらうため。こうした様々な理由が挙げられます。

Q. 制約はあるのか。

A. ございます。

アセアン農業研修生育成の一番の目的は「日本で学んだ技術・知識を自国で実践し、地域の農業リーダーとして自国の農業を担う人となる」ことです。

しっかりと目的意識のある元研修生をサポートするため、以下のような条件をはじめ綿密な確認を行ったうえで特定技能生として受け入れをしております。

【帰国後2～3年は経過している（日本で学んだことをまずは自国に還元してほしいため）、【本会が作成した目標設定シートを記入（現在の営農状況／ビジネスプラン／日本でお金を稼ぐ理由等）】

まずはご相談ください！

連絡先

受入業務課 電話：03-5703-0254

担当：笹島、山脇、清水



特定技能外国人受入事業
（フィリピン、タイ）

インドネシアも始動予定

研修期間

期間：1～5年

技能評価試験と日本語試験の両試験に合格した有能な人材を受け入れる事業。それぞれの分野に特化したプロフェッショナルであり、農家の優れた労働力としての活躍が期待されています。（特定技能生＝労働者として日本に來日する在留資格のひとつです）

母国の農業復興のために

ロミ ファディラー（インドネシア共和国 / ODA 研修生）
 受入農家 林 昌平（沖縄県 / H25 / 米コンビ）

インドネシアは、豊富な天然資源を持つ農業国であり、サバンからメラウケまで広がる多くの島々がそれぞれのポテンシャルとすぐれた商品を持っています。しかし、現在インドネシアが直面している問題は、農業者の世代交代と市場の確保です。

日本は私にとって、働くときの規律がとても正しく、農業分野でも進んでいる国の一つです。今回の研修に参加する目的は、日本の労働倫理と規律、日本の農業者がどのようにして日本の農業を世界で最も優れているものの一つにしたかを学びたいことです。また、日本の農業者がどのようにして市場の確保と生産価格の安定を実現できるかも学びたいと考えています。この機会を利用して、特にホスト農家やその仲間に、インドネシアの農産物を宣伝しています。例えば、ココナッツ、スパイス、チョコレート等、インドネシアには豊富に存在しています。

現在私は沖縄で農業研修を行っており、季節ごとに様々な作物を栽培しています。たとえば、この夏にはピーナッツやオクラを生産し、冬にはキャベツ、ブロッコリー、そしていちごを生産しました。毎日、ホスト農家である林さんと一緒に働き、そのスタッフである佐野さんや江川さんとも協力しています。

私の研修プログラムはまもなく終了しますが、将来、オイスター



左：ロミ
 右：受入農家
 林 昌平
 : H25 米 OB

地域の畑人好事で沖縄相撲に出場！
 惜しくも2人とも初戦で敗退…

マッシュルームを生産したいと考えています。また、農業分野において、特にマーケティングの分野で活動したいと計画しています。私は多くの農家や畜産業者と繋がりを持っています。彼らは野菜、果物、鶏肉、羊等、様々な商品を生産していますが、

市場の不確実性や価格の不安定さにしばしば直面しています。その為、私は彼らの市場を広げ、適正な収益をえられるようにサポートする役割になりたいと考えています。また、日本での研修中に行ったすべての宣伝活動を最大限に生かし、市場の細分化を広げていくことができれば、この取り組みがインドネシアの農業の復興に繋がると信じています。

(※研修生から届いた原文を漢字に変換した以外、そのまま載せています！)

にほんのまなんで

ODA研修生・技能実習生
 からのたより

果樹観光農園づくりを目指して

シリウィットサクン オラタイ（タイ王国 / 技能実習生）
 沖縄県 ファインフルーツおおぎみ

1. どうして日本にきましたか？

日本は静かで便利、快適で美しい国です。日本の観光地は美しいと思います。日本の農業は、新しいチョイスがたくさんあるので、色々な経験をするのにぴったりです。私の家族も農業をしています。なので、私は日本に来て農業に関する知識や経験、日本での働き方について学ぶことを選びました。

2. 今、どこで、どんな農業実習をしていますか？

沖縄県のマンゴー農園で実習しています！

9月から6月まで：管理作業（ネットはり、花上げ、摘果、実上げ、誘引、芽かき）

7月から8月まで：収穫、パッキング



↑同じ農場所属の JAEC タイ人技能実習生と！
 (オラタイ：一番右)

3. 将来、タイでどんな農業をしたいですか？

タイに帰ったら、果樹農園を作りたいです。例えば、ぶどう、ランブータン、マンゴー、イチゴなどです。観光や教育のための農園もやり

たいと思っています。農業に関する知識を教えたり、農場内にカフェも作ったりしたいです。お客さんは農場で果物を収穫して、それを使ってケーキやアイスクリーム、カフェの飲み物を作ったり…。

こうして、私たちの農場が、新しいマーケティングの形でお客さんの記憶に残るような農場にしたいです。

4. 農業以外の将来のプランニング

家族のために家を建てたいです。そして、父母が老後に働かなくても大丈夫ようにたくさんお金を稼ぎたいです。もう一つやりたいことは海外旅行です。行きたい国に行って、人生の経験を積みたいです。子供の頃の夢を叶えるために、やりたかったけれどまだできていないことを実現したいです！



農場の同僚と
 ソンクラン（タイの伝統的な水かけ祭り）
 パーティー！
 (オラタイ：右手前)

海外研修生の皆さん、私たちと一緒に働いてみませんか！

PW 植物の国際ブランド“PW”をはじめ
 PROVEN WINNERS グローバルなビジネス展開をする種苗会社です。
 海外研修生 OB が最前線で活躍しています。

Hakusan 株式会社ハクサン
 〒470-0104 愛知県日進市岩藤町三番割321-1 TEL.0561-75-5777(代) 採用情報は
 こちら▶

JAECの活動について

令和6年度の国際農業者交流協会の取組をダイジェストでご紹介いたします。

農業研修生 海外派遣事業

外国の農場で実務研修をするプログラム。募集啓発に際しては、県組織、そしてOB・OGの皆さんには大変お世話になりました。

ドイツとデンマークから日本の農業・造園を学びに来た研修生たちは、約1年間日本で技術や知識を身に付けています。

訪日欧州 研修生

日本語力と専門分野での知識・技術力の備わった外国人人材の紹介事業を実施しています。

特定技能

主に帰国研修生たちのために、求人している農家・企業をご紹介しています。

無料職業 紹介事業

国際化 対応営農 研究会

全国5ブロックで開催される海外農業研修OB・OGの勉強会をメインとした会合です。今年度は、秋田県、茨城県、岐阜県、岡山県、佐賀県で実施されます。

若年層のための農業研修事業として、将来畜産業を目指す高校生が参加する事業です。今年度はオーストラリアで畜産を学び、帰国後は各学校での啓発活動、国際化対応営農研究会では畜産アンバサダー活動を実施します。JRA畜産振興事業です。

畜産ティーン 育成プロジェクト 事業

ODA事業

フィリピン、タイ、インドネシアから約1年間研修生を受け入れる事業を実施しています。日本滞在中は到着時、夏の学課研修、帰国時研修など集合研修を行い、各県配属農家で実地研修を行う他、地方研修も実施してもらっています。農林水産省の補助事業です。

技能 実習生

フィリピン人とタイ人の技能実習生の受入事業を実施しています。技能実習生は1年から3年日本に滞在し、主に農業分野での技術習得を目指します。

フィリピンで炭・木酢・堆肥を利用した安全野菜技術(SAVERS)と、野菜流通改善事業(FIVPS)を実施しています。

海外 農村開発 支援事業

フォロー アップツアー

主にアセアン研修生受入農家の皆様に研修生の帰国後の様子を見てもらうために現地訪問ツアー(フォローアップ)を実施しています。



【コラム 協会を知っていただくために #1】

協会は、国内外の農業者を育成するためにいろいろな事業を行っていますが、その実施・運営に際しては実に多くの方々に支えられています。今回は、ご寄付、賛助会費などご厚意を寄せていただく方々が、協会にとって如何に重要な存在であるかについてお話をさせていただきます。

協会は、金額ベースで全事業の約95%を公益目的事業として、また、それ以外をその他の事業として運営しており、収益事業は行っていません。公益目的事業により利益を上げることが認められていないことから、各事業を運営するために必要な事業収入以外は正会員費や賛助会費、ご寄付等で賄うこととなります。

協会は、寄せられたご寄付や賛助会費に対して税制上の優遇措置(税額控

除、所得控除等)が受けられる対象団体となっていますが、その資格を得るためには、①3,000円以上の寄付者の数が過去5年間継続して個人、法人問わず100人以上であり寄付金額が平均して年に30万円以上であること、②総収入額に占める寄付金総額の割合が5分の1以上であること、のどちらかの要件を満たす必要があります。ご寄付された方々、賛助会員の方々にとっての税制優遇となる制度ですが、寄付を受ける側として協会にはこのような要件が求められます。毎年、ご厚意を寄せてくださる方々によって協会が支えられていることがお分かりいただけると思います。深く感謝申し上げますとともに、今後も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

備えの種をまこう。



農業保険や地域の話
たくさん載せて
ポストに届くよ



月4回・水曜日発行
年ごめ 5520円
月ごめ 495円
(送料共)



購読のお申し込みは、最寄りの農業共済組合または農業共済組合連合会、全国農業共済協会へ
発行所=公益社団法人 全国農業共済協会 東京都千代田区一番町19番地 TEL 03(3263)6413

協会の動き

賛助会員・寄付のお願い 国際農業者交流協会の活動をご支援ください！

●賛助会員

本会の活動にご賛同いただき年会費によって本会を支えて頂いております。希望される方は、協会までご連絡ください。または、同封の払込取扱票によりお申込み下さい。

●寄付金

本会への寄付金は、公益目的事業の運営に用いることと定められています。ご寄付にあたってはゆうちょ銀行（同封の払込取扱票）又は、銀行振込（振込手数料はご負担ください）をご利用いただけます。

払込取扱票	銀行振込先口座
ゆうちょ銀行 加入者名：公益社団法人国際農業者交流協会 口座番号：00110-8-538246 ◆領収証送付のため、通信欄にご芳名、ご住所、電話番号をご記入ください。	みずほ銀行 蒲田支店 普通：3106914 口座名：公益社団法人国際農業者交流協会 シヤ) コクサイノウギョウシャコウリュウキョウカイ ◆領収証送付のためにご芳名等がわかるようにお振込みください。

賛助会員及び寄付者には、税額控除団体の証明書と共に領収証を翌年2月中旬までに送付しますので、確定申告にて税額控除を受けることができます。

また、公益法人への寄付に関する詳しい説明のあるページをご紹介します。

https://www.koeki-info.go.jp/pictis_portal/other/zeisei.html

賛助会費・寄付金へのお問い合わせはこちら 電話番号 03-5703-0251



令和6年6月10日以降（NF256にて紹介後）に御寄付頂いたのは次の方々です。（令和6年11月6日現在）

北海道/杉本 安弘 森田 茂 前田 久蔵 松木 憲賀 新藤 修 松田 泰一 小林 靖夫 青森県/吉田 秀美 三浦 勝 松田 秀次 藤村 一豊
 岩手県/小倉 真理子 宮城県/高橋 均 高橋 寿巳 川村 雄治 長井 勝 秋田県/深澤 誠 佐々木 俊則 山形県/上野 浩一 渋谷 政信
 近藤 将来 栃木県/伊藤 直樹 篠田 雅久 群馬県/黒岩 和敏 山崎 雅志 埼玉県/黒澤 健一 千葉県/末石 博邦 藤井 佐紀子 木村 政幸
 東京都/佐藤 紳 蒲島 郁夫 工藤 巖 神奈川県/鈴木 稔彦 福原 康人 石渡 康郎 川崎 忠男 片山 喜二 新潟県/長橋 良穂 渡邊 巖
 石川県/南出 清司 山梨県/羽田 稔 岐阜県/石神 五雄 静岡県/清 貢 愛知県/横山 賢一 滋賀県/北村 進一 京都府/近藤 康人 中野 宏
 大阪府/榎本 庄司 奈良県/森馬 淳 水田 恵一郎 松井 識樹 島根県/石原 順治 岡山県/春名 義則 片岡 正章 広島県/栗田 賢 森田 幸秀
 国成 幸雄 山田 聖三 山口県/木下 辰己 徳島県/天羽 俊文 楠 正人 香川県/松本 弘 愛媛県/田中 寿輔 山 下 新市 高知県/岡添 裕章
 林 一宏 佐賀県/稲富 篤 長崎県/藤川 勇 里崎 徳一郎 熊本県/後藤 照秋 陣内 幸年 荒木 康麿 出田 正明 一瀬 俊郎 大分県/
 大鳥 昇一 宮崎県/大平 落 泰憲 鹿児島県/下田 保幸 板元 岩雄 東 博光 沖縄県/大城 辰雄 仲本 英宏 川本 康博 海外/橋 慈子
 竹田 政敏 (順不同 敬称略)

また同じく 今回新たに賛助会員へ入会された方々です。

北海道/糸屋 新一郎 渡邊 邦衛 松木 憲賀 岩手県/佐々木 嘉春 紺野 啓 宮城県/今野 建司 半澤 善幸 松崎 安典 高橋 寿巳
 福島県/大内 俊昌 茨城県/大貫 善之 栃木県/森島 規仁 群馬県/根岸 宏行 埼玉県/石井 豊史 羽鳥 雄一 細田 保浩 塩味 長一郎
 千葉県/磯貝 正一 藍川 英樹 (有)北川鶏園 東京都/岩田 弦 神奈川県/伊藤 洋文 早藤 義則 吉田 勝一 新潟県/首藤 正人 鈴木 裕昭
 島田 福德 福井県/武藤 明彦 山田 豊 建石 正治 山梨県/中込 農産(株) (有) M.A.C.Orchard 長野県/高見澤 宣男 横森 利明 菊池 辰夫
 菊池 隆明 菊池 隆仁 栗田 米男 嶋崎 兵治 新海 昇 風間 久治 井澤 亮 青野 勝 高見澤 良夫 井出 博彦 今井 瑞穂 道木 太郎
 新海 善光 浅見 満 栗田 茂 中道 農園(株) 信州くだもの村富永農園(株) 静岡県/兼子 保峰 平野 耕志 渡辺 守男 愛知県/内藤 完次
 原 宜延 宮下 優子 横山 賢一 滋賀県/田淵 竹男 京都府/小嶋 直樹 和歌山県/富岡 幸男 橋詰 龍也 岡山県/石原 直樹 大内 盛勢
 廣瀬 樹里 広島県/光永 浩章 愛媛県/工藤 清志 田村 隆悟 森崎 正 中村 忠一 長崎県/大石 喜久男 熊本県/河瀬 憲雄 中川 利美
 荒木 康麿 大分県/稲益 大希 宮崎県/富満 哲夫 園田 武文 河野 雄一郎 松岡 洋一 沖縄県/石川 清友 喜友名 朝秀 与那嶺 修 林 昌平
 (株)ファインフルーツおおぎみ (順不同 敬称略)

事業関係者の逝去

長年研修生を受けてくださっていたハワイのRoy Honda農場の奥様(Takakoさん)が2024年11月29日にお亡くなりになりました。ついでに、2025年2月2日にハワイのご自宅にて葬儀を営まれますのでお知らせします。詳細については、本会にお問い合わせ下さい。

協会人事

<退職> ~お疲れ様でした~

令和6年8月31日 佐々木 亮輔 (業務部派遣業務課職員)

AIG損害保険株式会社



CCA東京支店

担当 室田・石川・杉村

〒105-8602 東京都港区虎ノ門4-3-20 神谷町MTビル 6F
TEL : 03-5637-0721 FAX : 03-3622-2040

書籍の紹介

「ゆきのおくりもの」



欧州研修生のオランダ語講師をして頂いた西村由美先生が翻訳した絵本が出版されました。

リンデ・ファース 文・絵
西村 由美訳/岩波書店

編集後記

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひします。海外農業研修の募集は1月からスタートしています。海外農業研修を勧めるみなさんのお声がけに心から感謝いたします。

良い一年になりますように！！